

式辞

桜の蕾もふくらみ始め、春の息吹を感じる今日のこの良き日に、飯田市立飯田西中学校の第七六回卒業証書授与式を、保護者様ご臨席のもと挙行できますこと嬉しく存じます。保護者の皆様におかれましては、お子様の晴れの姿を目の当たりにし、感慨もひとしおのことと拝察いたします。九ヶ年の義務教育を終えられますことに、深く敬意と祝意を表したく存じます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとございます。式挙行にあたり、飯田市教育委員会からご挨拶を頂戴し、在校生や先生方が皆さんの晴れの舞台を整えてくれました。また、式場外でも、多くの方々が皆さんの門出を祝福してくださいっています。私たち職員の自慢である皆さんが、力強く巣立っていくことを誇らしく思います。

令和二年二月二七日、全国すべての小中高校に対して、三月二日からの臨時休校の要請があり、現場は大混乱し対応に追われました。以来、卒業生の皆さんは、小学校卒業時から中学三年間、コロナ禍でのマスク着用生活や

黙食、行事や活動・外出等の制限を強いられ、それまでの日常や当たり前が変わりました。

新型コロナウイルスの出現により、私も人々の対極の考え方による対立に直面しました。さらには、差別や偏見、分断、そして正義感などからも生じる批判や攻撃、加えて人を許すという寛容さの喪失を感じました。「試練は、乗り越えられる人にしか与えられない」とも言われますが、この感染症と闘ってきた私たちは、人がもつ弱さや矛盾などが露呈され、数多くのことを学んだと言えます。

特に、思春期真只中を生きる皆さんには、ゆずの「栄光の架橋」の歌詞のとおり、誰にも見せない涙や人知れず流した涙、悔しかったり悲しかったり、恐くて震えた夜もあったことと思います。そして、この姿を見ている大人の側もまた、決して平らな道のりではありませんでした。しかし、共に確かに歩んできました。だからこそ、皆さんは心身ともに確実に成長したのです。

折に触れ、皆さんに紹介した言葉の中から、心理学者エリック・バーンさんの言葉を引用し、話をまとめます。

「過去と他人は変えられない。しかし、今ここから始まる未来と自分は変えられる」。これは、人間関係の間に入って、私自身も苦しんだときに出合った言葉です。

人を変えることは容易いことではありません。ましてや起きてしまった過去など変えることはできません。しかしそのときの私は、過去の出来事を引きずり、なぜ彼らは変わってくれないのだと嘆いていました。そのとき、この言葉のおかげで一筋の光が見えました。「どうせ変わらないのであれば、あるが儘を受け止めよう」。そう思ったら、気持ちが楽になったのです。

過去や他人を変えることはできませんが、人生の糧にしたり教訓になったりします。そして、「今ここから始まる未来と自分は変えられる」というフレーズから、私は前向きになれたのです。つまり、あときはこうだったとか、人のせいにし相手を責めているだけでは、解決の糸口は見えず前に進むことはできません。だとすれば、自分が行き詰まっていることに対する見方や考え方、態度や行動など、思考を変えてみようじゃないか。自分が

変われば、未来も変えられるのだからと背中が押され、新たな一步を踏み出す勇氣も湧いたのです。

卒業生の皆さんはここを巣立つと、新たな生活が始まり、変化が生じます。その行き先は、皆さん自身が選択したのであり、縁あって進む道です。新たな環境でもきっと皆さんの前に立ちはだかる壁があることでしょう。ピンチもあれば、様々なチャンスが巡ってくることでしよう。そのときこそ、逆転の発想やプラス思考、この学び舎で経験したことを活かして、苦難を乗り越えたり、チャンスをつかみ、チャレンジしたりしてください。皆さんの人生は始まったばかりです。皆さんの可能性を心から応援しています。

本日参集の皆様のご健康とご発展、そしてご幸運をお祈り申し上げ、式辞を結びます。

令和五年三月一六日

飯田市立飯田西中学校 校長 宮下寿男